

# 西宮市子ども・子育て会議

## 第6回 確認部会

### 会 議 録

■日 時：令和2年3月17日(火)

■場 所：西宮市職員会館1階 大会議室

## 会議次第

---

### 報告事項

- (1) 令和2年4月保育所等入所申込の状況について
- (2) 保育所等待機児童対策の進捗について

### 議事

- (1) 教育・保育施設及び地域型保育事業の確認について

## 会議概要

---

### 報告(1) 令和2年4月保育所等入所申込の状況について

○部会長 1歳児の申込者数が増えている要因は、育休明けの保護者の申込の増によるものか。

●事務局 毎年1歳児の申込者数が一番多いが、育休明けの保護者の申込が多いのではないかと考えている。

○部会長 育児休業延長等の手続きのために申込みされている方はどの程度か。

●事務局 育児休業の延長を希望される保護者については、申告することになっており、利用調整指数を低めにしている。今年度は、育児休業の延長を希望されているながら、入所できる方は少ないと感じている。

### 報告(2) 保育所等待機児童対策の進捗について

○部会長 私立幼稚園の協力幼稚園事業でもう少し受入枠が増えないのか、どのあたりがネックになっているのか。もう定員が一杯で空き枠がないのか。

○委員 それも確かにあるが、夏休みの預かり保育がネックになっている。私立幼稚園連合会の園長会でも、今の社会ニーズに对应していく必要があることについて訴えているが、そこが大きな要因だと思う。

○部会長 幼稚園教諭の負担がかかるということ。

○委員 保育園のようにシフトを組んでやっていくというやり方、考え方だろうと思う。引き続き訴えていきたい。

○部会長 西宮が恵まれているということ。地方の幼稚園は園児がいない。

○委員 幼稚園需要が就学前児童数の30%に止まっているというのもそこだと思う。私立幼稚園39園が協力するというのが西宮では一番いいかと思う。

○部会長 少子化を見据えて幼稚園で受け入れたほうがよい。地方で起こっているような供給過剰になってもいけない。

○委員 私立幼稚園も意識は大分変わってきており、あともう少しかと思う。もう

一つのネックは、保育をする保育者の不足で、預かりたくても人がいないということ。

○部会長 夏休みなどの長時間保育が課題か。

○委員 ずっと保育に関わっている教諭を休ませたいと考えると、夏休みや長時間の預かりを担当する職員の確保がかなりネックになっている。

今は保育士不足と言われているが、幼稚園教諭も同じ状況にあることから、幼稚園独自で就職フェアをやりたいと思っており、それによって協力幼稚園事業で協力できる園が増えてくるかと考えている。

○部会長 協力幼稚園事業は、例えば盆休みや年末年始は1週間休むなど、通常の保育園と比べどのようなルールになっているのか。

●事務局 夏休み、春休み、冬休みに数日程度の休みを設けても構わないとしている。

○部会長 それでもなかなか難しいのか。保育園の定員弾力化についてはどうか。

○委員 それは今まさにやらなければいけないことで、もっと受入枠を増やしてほしいということは、各園に何回もお願いしている。少子化を見据えると、新しい保育所をつくるよりは各園が頑張って受入枠を増やすことをお願いしているが、幼稚園と同様に、保育士不足があり、そこが一番のネックである。

○委員 市町村で取合いをしていて、あっちに就職すればお金がもらえるからと、それでみんな動く。あれは少し問題だと思う。難しいところ。

○部会長 アンケートを見ると、就職の時はみんなやはりお金につられて決めてしまうみたいであるが、続けるかどうかは、結局お金の数万円とか年収ではなくて、続けやすい職場だと続けるし、辞めた人を調査すると3割ぐらいは同じ業界で転職しているようだ。

○委員 明石市などは、採用後7年まで毎年20万円、最後の年は30万円の一時金を支給しており、賞与以外の収入があれば年に1回海外旅行も行けるから。保育士はほかの民間企業に比べたら給料が少ないので、やはりそのあたりは魅力的かもしれない。

○委員 最初はやりがいなども見えないことから、目に見えるものにつられてしまう。

○委員 幾らアピールしても分からないから。

## 議事（1）教育・保育施設及び地域型保育事業の確認について

### ①確認の制度概要について

○委員 待機児童が多い中で、入所児童が定員の120%を超える状態が5年続くとペナルティが科せられる、そこがどうも理解し切れないというか、受け入れがたいところで、もう少し説明をお願いしたい。

●事務局 国の考え方としては、恒常的にその定員を超えている場合は認可定員を

見直してはどうかということ。

○委員 それであれば納得した。

○部会長 施設にとってはどちらが得なのか。定員を増やすと、実は1人当たりの公定価格の単価が減るのでは。

●事務局 子供1人当たりの公定価格の単価は、定員が少ないほうが高い傾向があるため、そういう意味では少し不利になる可能性はある。

○部会長 たくさんの受入れを依頼する一方で、それが何年も続くとペナルティを科すということになってしまうため、いつもぎりぎり118%ぐらいにしておけばいいということか。西宮市では継続的に待機児童がいて、施設をつくっても、つくっても減らないわけで、園側の厚意で受け入れてもらっているのに、それが何年も続くとペナルティになるというのは少しおかしいところがある。

○委員 私立幼稚園の私学助成においても、何年も定員を超えるというのはだめで、そこは勇気を持ってペナルティを科せられても子供を受け入れるほうをとるかというところの決断だと思う。

○委員 ペナルティというのはどの程度か。

○委員 定員100人に対し120人の受入れがずっと続けば、本来の定員120人の公定価格になるため、別にペナルティというほどではない。

○部会長 自動的にそうになってしまうということ。

○委員 そうである。

○委員 私立幼稚園の私学助成では、減額される一方で、園児数が増えるため入ってくる分もあり、そこをどう考えるか、勇気を持って定員をオーバーしてでも受け入れるかということだと理解している。

○部会長 受け入れたほうが得になる構造にしておかないと。

○委員 協力幼稚園事業で入園児数が増えた場合については、市と県の調整により、兵庫県ではそこは理解されている。最初の話に戻るが、協力幼稚園事業にはほとんど協力できたらなと思う。

## ②利用定員の設定について

○委員 待機児童解消のため新たに利用定員を設置する施設の総合計の増加定員と、小規模・家庭的保育事業の7から10の廃止理由を教えてほしい。

●事務局 資料集7ページの(1)認定こども園の1から9は、既存の保育所から幼保連携型認定こども園への移行のため、2号・3号の定員の増減はない。認定こども園に関しては、10の幼稚園から認定こども園に移行する「幸幼稚園」の3号20人、2号39人の計59人と、8ページの(2)保育所の「西宮本町つきの保育園」の2号・3号を合わせて50人、計109人になる。

●事務局 7の「いろえんぴつ」は、園長がこれ以上続けていけない、後任の方もいないという理由からの閉園になる。8から10の3園については、給食の設備がな

く、今後給食の提供自体も難しいために閉園すると確認している。

○部会長 7から10の施設がなくなると、0～2歳の枠が20人ぐらい減るのか。

●事務局 32人減る。

○部会長 では、4月は109人増えたとはいえ、今まであった小規模の32人が減るから、実質は77人増か。

●事務局 そういうことになる。

○部会長 残念なことである。1号定員は少し増えているのか。

●事務局 1号認定については、公立幼稚園の休園も含めてトータルするとマイナスになるが、現在の受入状況から影響はないと思う。

4の「むこがわ幼稚園」は、利用定員の引上げによって、3号は12人から16人のプラス4人、2号は28人から54人のプラス26人とあるが、既に利用定員を超えた受入れをしている状態で、今回は実態に合わせるだけの定員変更になるため、「むこがわ幼稚園」に関しては増えたからといって実際に4月からの受入れにプラスが出ているわけではない。

○部会長 施設はあっても、西宮市で保育士、幼稚園教諭を見つけるにはどうすればよいのか。住みたいまちナンバーワンだが、地方から西宮に引っ越しして来る保育士はいないのか。

●事務局 いないわけではないと思うが。

○部会長 家賃補助は行っているのか。

●事務局 実施している。

○委員 その効果はてき面である。自園では今年7人就職するうちの6人が補助制度を活用するため、本当にありがたい。

●事務局 保育士養成施設を回ったときにお金よりも保育の質が大事であると一番声を聞くので、例えば保育士の配置基準なども含めてアピールしていきたい。

○部会長 西宮は育休もとれて安心して働き続けられる、子供ができて西宮自体は子育てもしやすいところだから長く住んで働き続けられるという点でアピールできればと思う。

〔午前11時47分 閉会〕

## 【委員出席者名簿 4名】

## 【事務局出席者名簿 12名】

所属団体・役職名等	氏名	所属・役職	氏名
株式会社チャイルドハート 代表取締役社長	木田 聖子	子供支援総括室長	大神 順一
西宮市私立幼稚園連合会 理事長	田村 三佳子	子供支援総括室参事(計画推進担当)	安福 聡子
西宮市私立保育協会 会長	藤原 和子	保育施設整備課長	貴志 健太
甲南大学マネジメント創造学部 教授	前田 正子	保育幼稚園指導課長	田中 由恵
		子育て事業部長	伊藤 隆
		子育て事業部参事(保育指導担当)	田中 玲子
		保育所事業課長	西村 聡史
		保育幼稚園支援課長	松井 亮一郎
		保育入所課長	秋山 一枝
		【教育委員会】	
		学事・学校改革部長	津田 哲司
		学事課長	竹村 一貴
		学校改革調整課長	河内 真